

現場力 人間力

現場品質を支えるプロフェッショナルに聞く



有限会社阿蘇工業

代表取締役 佐藤 浩一 氏

遊ぶために働く、でもいい。

生きていく糧を仕事で生み出すと考える人たちと働きたい。

働く人が夢を見られるような会社になりたいと思っています。

—仕事内容をお聞かせください。

防水工事全般をやっています。主に一般住宅の新築、改装工事です。

—この仕事を始めたきっかけは？

高校卒業後、父の会社に職人として入社しました。その7年後、父の急死により跡を継いで代表になり今年で10年、2代目です。社名の阿蘇は、両親の出身地からつけられています。

—面白さとか、やりがいはどんなところにありますか？

仕事をするからこそ遊んだり欲しいものを買ったりできる。仕事の先にあるものがやりがいとなっているのかもしれませんが。もちろん、防水という職業上、雨漏りしているお家を直すと、やってもらって良かった、きれいになったと言われるのがうれしいですね。予算や制約があってもベストの状態仕上げなきゃいけない中で、お客さんに喜んでもらえたら嬉しいし、住宅は生活する大事な場ですから、そこに携わってきたやりがいとか喜びはあります。

—では逆に苦労していることは？

やりたいことができない時ですね。うちはこうやりたい、ここは譲れないと思っても現場の都合上できないとか、妥協せざるを得ない

時などはやっぱりいやですね。それは経験を積んで知識を少なからず持ち始めて、ああこれはダメなんだなというのもだんだんわかってきて見えてきたものかと思います。

—やっていて、自信を失うこととか、失敗談とかありましたか？

急に代表になって、素振りもしていないのにバターボックスに立ったようなものです。ここはどうするんですかと聞かれる立場になり、それなりには答えるけど間違っていたりとか、やっぱり当時は知識が少ないですから。後で考えるとあれでよかったなと思うこと、失敗というか反省点はたくさんあります。あーやっちゃったなという大きなことはないかもしれませんが。もしあれば今やってられないですもんね。

—社長になって10年。プレッシャーも相当だったと思います。あつという間でしたか？

そんなに年月のことは気にしてなかったですね。建設業許可証の更新などの時にああ10年経つんだって気づくような。あつという間とも言えるしやっとも言える。振り返ってみると何もしてないと感じます。今でも思っていますけれど、会社を作るというのは無かったものを作ること。ゼロから1を生み出す人にはやっぱり勝てないと思います。1を2に、2を3にすることは多分できるんですよ。

—ではもし、1から100にするとしたらどのようにして行きたいですか？

100にするベクトルというのがあって、それは売上を100なのか、保険屋さんじゃないけれど満足度が100を目指すのか、とか。社長の舵取り次第ですよ。

売上を上げたいというのはどこかにあると思うんですけど、そのために払う犠牲、働いている人間に対して苦痛を強いるような働き方ではなくて、適度な働き方でそれなりに余裕のある生活ができるくらいであれば、会社としてもそんなに大きくしなくてもいいのではないかと思います。もちろん会社をやっている以上、大きくしたいというのはありますけれどそればかりに囚われないように。

—100のベクトルは満足のほうですね。

一緒にやってくれる職人さんたちに、やっぱり阿蘇さんのところの現場に入れてうれしいな、またあそこの仕事をやりたいなと思われる会社がいいですよ。元請けさんとの間に入りながら施工してくれる職人さんたちがいかにやりやすいようにするかをいつも考えているつもりです。自分が職人だったからということが大きいかもしれません。仕事がスムーズにいくようになればそれなりに安くもできるだろうし外注先でも利益が出せると思います。

もちろん防水屋ですから漏らすことは絶対にできない。その責任感があるので技術は完璧を求めますし、そこが最終的なクオリティに繋がっていく。第三者から見ても施工は問題ないですよと言われるようにしておかないと。他からこのやり方は無いよねと言われるのは嫌ですから。

—経営者として今、直面している課題や悩みはありますか？

どこも同じだと思いますがやっぱり慢性的な人材不足ですよ。技術の継承というか、育成しないと先は大変だなと。若い一人親方を探してくるにしても自分で仕事で手いっぱいの人も多いし、どういう技術を持っているかわからないこともあり、難しいところです。でも雇用するにしても、働き方改革は雇用条件が建設業向きではないんです。国の労働基準で雇用するとたぶん成り立たない。この業界は週休2日は存在しませんから。でもお役所的には週休2日、4週6休は絶対条件です。なおかつ有給休暇とかそれらの条件を全部満たそうとすると、今の単価や予算だと追いつかないのが現状ですよ。

極論すればハローワークに募集を出せない。ルールを決めて出すわけですからそこから外れて、例えば土曜日も出てと言ったら揉めるかもしれませんし。そんなに働いてもお金にならないんだったら体壊れない程度にボチボチ仕事したほうがいいやと思う人も結構多いと思うんです。時代がそうなっていると思っています。



—どんな人と一緒に仕事していきたいと思っていますか？

仕事したいと思う人と一緒にやっていきたいですね。真面目っていうのは違うかな。別に最初から技術的に上手くなくてもいい。あとは、常識のある人ですかね。何でもツイッターに上げるとかしないような。生きていく糧を仕事で生み出す人、かな。遊ぶために仕事しているでもいいのです。遊ぶことは仕事しているご褒美ですから。ただ仕事はきちんとやる。

—真剣に働き、真剣に遊ぶ人。

うちの仕事をして充実した人生を送ってくれればいいですよ。自分の変な理想ですけど、うちで仕事をして家を買ってもらいたいな。家も買えないような会社だと嫌ですから。もちろん本人がどうお金を使うかですが目標を持てばそれに向かってモチベーションは上がる。それが重荷になっては困るけれど、ここなら夢を見られると思えるような会社になりたいと思っています。